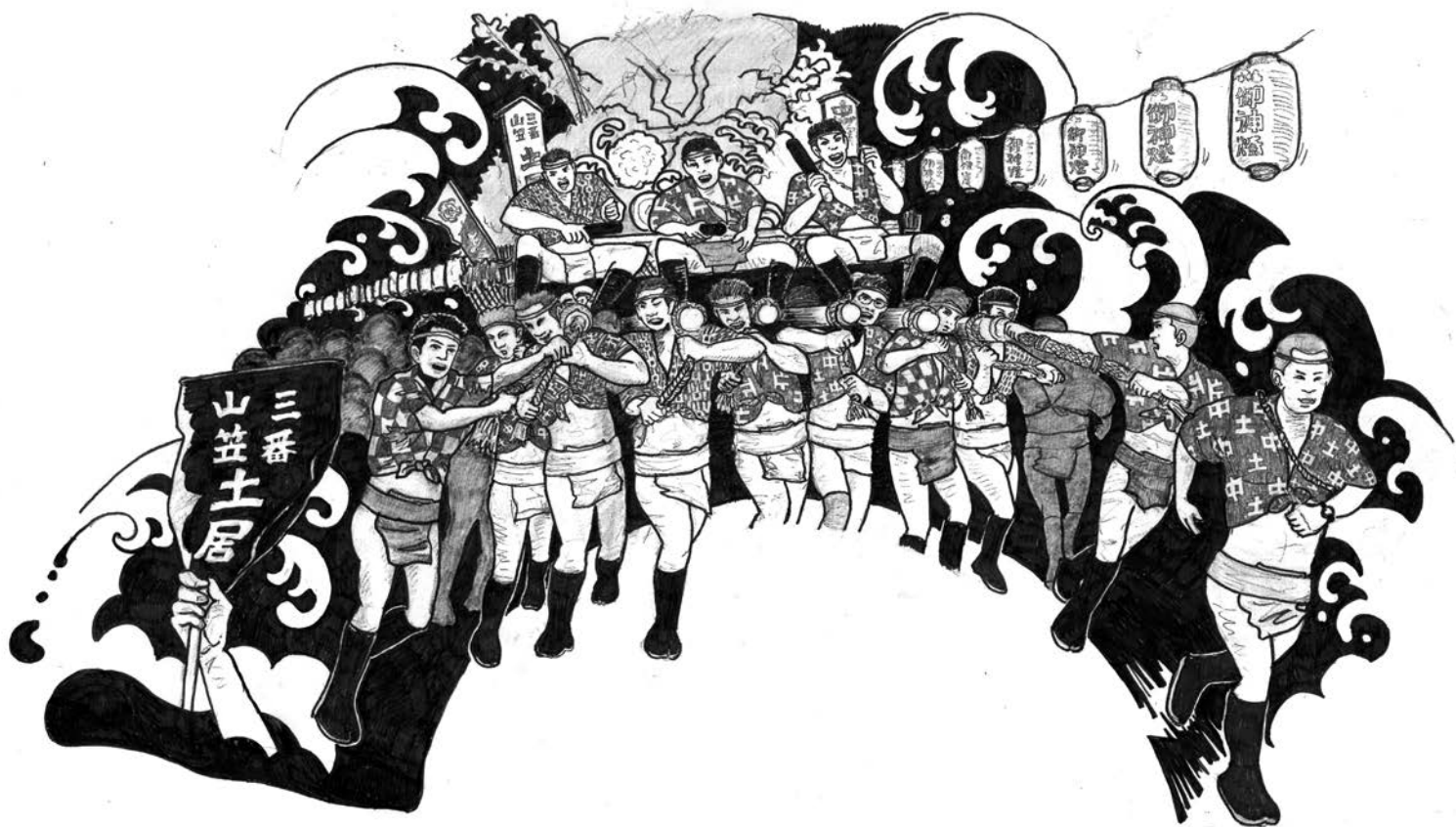


第19回

らくぶん
楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!



近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
http://hakanokaze.jp

平成30年

- 5月 第39回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:前田 恒明(住友商事九州株式会社 取締役社長)
- 6月 第17回 追山コース探訪 開催
第18回 楽文コンテスト 開催

- 11月 第18回 楽文コンテスト表彰式 開催

令和元年

- 5月 第40回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:戸谷 弘一(福岡県警 博多警察署長)
- 6月 第18回 追山コース探訪 開催
第19回 楽文コンテスト 開催

- 11月 第19回 楽文コンテスト表彰式 開催

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL http://hakanokaze.jp

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催
- 協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

- ◎主催 博多の風
- ◎特別協賛 docomo
- ◎協力 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社
RKB毎日放送(株)、日本電気(株)
- ◎選考委員 豊田 侃也氏(博多祇園山笠振興会 会長)
永守 良孝氏(RKB毎日放送 相談役)
沢田 幸二氏(KBC九州朝日放送 パーソナリティ)
大庭 宗一 (NPO博多の風 理事長)
- ◎協賛 九州電力(株)、西部ガス(株)、JA福岡市、西日本鉄道(株)
- ◎後援 福岡市、福岡市教育委員会
(一社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、九州旅客鉄道(株)
(株)九電工、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、
(株)西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行
(順不同)

第51号
令和元年11月発行



博多祇園山笠振興会賞

わたしの大好きなやまかさ

●箱崎小学校1年

渡邊 咲空

わたしは、はかたぎおんやまかさが大好きです。なつがちかづいてあつくなると、「もうすぐやまかさがはじまるな。」とわくわくします。きおみずのにおいや、ごりよんさんがつくるおいしいりよりのにおいをおもいだして、たのしみなきもちがどんどんふえていきます。

わたしは、やまかさにでているおとうさんといっしょに、いつもやまかさにいきます。おとうさんがはしっているのを見ることが大好きです。きよねんはあかてのぐいだつたのが、こしはあおとしろのてのぐいになりました。あおとしろのてのぐいは、くるのかみのけにはめだたないの、たくさんのひとのなかにいるおとうさんをみつけるのが、とてもたいへんでした。みつけると、おとうさんががんばっていて、うれしくなりました。

おとうさんは、わたしがちゃ

発表！ 第19回楽文コンテスト 入賞者

毎日新聞社賞

- ・「きらいだったのに」 名島小学校2年 山岡 康華
- ・「歴史」 香椎小学校6年 崎山 煉
- ・「二つの宝物」 春吉中学校1年 三浦 悠佳
- ・「私が大好きなこと」 和白中学校1年 横内 泉美
- ・「私が好きな事」 野間中学校2年 明神 悠花

RKB毎日放送賞

- ・「楽しかった夏休み」 馬出小学校5年 鶴尾 小春
- ・「ぼくは今ラグビーに燃えています」 壱岐小学校6年 溝邊 享仁
- ・「私の大好きな山笠」 吉塚中学校2年 中山りおん
- ・「大好きな祖父との、約束」 春吉中学校2年 伊賀 愛奈
- ・「私が大好きなこと」 友泉中学校2年 田中 琉惺

博多祇園山笠振興会賞

- ・「わたしの大好きなやまかさ」 箱崎小学校1年 渡邊 咲空
- ・「わたしの大好きな妹」 馬出小学校3年 島山 美愛
- ・「私がお好きなこと」 松崎中学校1年 吉村 夢叶
- ・「みんなの思いやりで」 筑紫丘中学校3年 大塚 双葉
- ・「僕のロマン」 平尾中学校3年 豊田 大徳

NTTドコモ賞

- ・「いっばい、いっばい」 堤小学校1年 松尾 明花音
- ・「私の“大好き”」 堤小学校5年 堀内 紗衣
- ・「ゴールを目指して」 姪浜中学校1年 横山 蒼空
- ・「僕の妹」 春吉中学校1年 吉田 空翔
- ・「美しい日本語」 青葉中学校3年 石川 史枝

NEC賞

- ・「うまれたひから」 堤小学校1年 西山 希生
- ・「ぼくが大好きなこと」 照葉北小学校4年 平田 朋暉
- ・「ぼくが鉱物を好きなわけ」 東箱崎小学校5年 岡田 有人
- ・「大好きな野球」 筑紫丘中学校2年 佐々木 勇輔
- ・「私の好きなもの」 春吉中学校2年 浦吉 真愛

そらにみえるほしをさがします。そらがだんだんあかるくなるころ、やまがうごきだします。「おこさっ。」
「こえにあわせて、わたしはてをたたくます。7つのなぐれがとおりすぎるころには、そらはあかるくなっています。「やまかさがおわたたな。」とすこしだけかなしいきもちになります。でもさいごは、いそがしかったけどたのしかったなとおもいます。

らです。おたがいにゆずり合うときもあるけど、妹もいじっぱりなので「あのおもちゃがいい。」と、とり合いになることがあります。いつもすなおにゆずってあげなくてごめんね。でも、アイス屋さんごっこをしたり、ジュース屋さんごっこをしたり、おきやくさんと店いんさんをかわりばんこにやって、いつも楽しいです。

な？」と言われたとき、「なかよしだよ。」と二人いっしょに言ったことがあります。そんな妹の大好きなところを手をつないでくれたり、やさしくかたをトントンとしてくれるところ。小さいときにはねているときに、かみのけをひっぱられたり、たたかれたり、いろんなことをされたりしたけど、今はとてもやさしくせい長したと思わせてくれます。

わたしているスポーツだと聞いてカツコイイなど思ったからだ。そんなとき、ジムのコーチから、
「ムエタイの本場、タイでトレーニングをしてみないか。」と言われ、家族に相談しているいろんなことが日本と違っていた。食べ物の匂い、道がデコボコしていて歩きにくい、横断歩道に信号がない、ものすごいじゆうたい、トイレにペーパーがなく、ペーパーがあるトイレでも、流してはいけない、缶やおかしがあげにくい、など私は驚くことばかりだった。そしてムエタイのトレーニングもまた日本と違うことがたくさんあった。まずは最初の縄跳びが直径二センチほどあるゴムのチューブだった。それを三十分も飛び続けるのだ。次に驚いたのは、ミットうちが始まってからの選手たちの迫力だ。聞いたこともないミット音、見たこともない連続技、選手達の真剣な表情など、どれを取っても日本では経験したことのないものばかりだった。中には、元世界チャンピオンも指導者として数人いて、私にも指導してくれた。四日間通ったことで、なんだ

かすごく強くなった気がした。ジムが休みの日を利用して世界遺産のツアーにも参加した。見るものすべてが幻想的で、物語の中にいるようだった。一生忘れることのない光景を見ることができた。そして、いよいよ一番の楽しみだったスタジアムでのムエタイ観戦に行くことができた。リングサイドで見るとは、思わず立ち上がってしまふほど興奮した。タイの民族音楽の生演奏に加え、セコンドや観客の熱気に圧倒される感覚。さらに、試合開始五秒での一発KOには一瞬何が起きたのか分からないほど驚かされた。

わたしの大好きな妹

●馬出小学校3年

島山 美愛

わたしの好きなことは、妹と遊ぶことです。妹は五才です。よくケンカもするけど、なかよしです。ケンカの理由は、だいたいおもちゃのとり合いと、妹が遊んだおもちゃを、ちゃんとかたづけけないか

また、おじいちゃんとおばあちゃんの家遊びに行き、近くの海へ行ったときのことです。海に入って遊んでいた、大きななみが来て、妹の口に海水が入りました。妹は「しょっぱい。」と言ひ、びっくりして海水をはきだしていました。

私が大好きなこと。それは、ムエタイだ。習い始めたのは、つい最近だが、三年前から習っている姉がカッコよくて興味があった。なぜ大好きなのかという、百八ものわざがあり、世界で一番強いと言

私がお好きなこと

●松崎中学校1年

吉村 夢叶

わたしは、はかたぎおんやまかさが大好きです。なつがちかづいてあつくなると、「もうすぐやまかさがはじまるな。」とわくわくします。きおみずのにおいや、ごりよんさんがつくるおいしいりよりのにおいをおもいだして、たのしみなきもちがどんどんふえていきます。

わたしには二さいのおとうとがいます。おとうとは、ことしのおしおいとりで、はじめはしりました。はこぎぎぐうのさんどうだけだったけど、おとうさんとてをつないで、うれしそうにはしっていました。きよねんはだっこをされていたので、大きくなつたなとわたしもうれしくなりました。わたしは、やまかさにでるおとうとをみるのも大好きです。

楽しんでやり切ることだと思
います。

みんなの思いやりで

●筑紫丘中学校3年

オオツカ
フタバ
大塚 双葉

私は今とても好きでハマッ
ているアイドルグループがあ
ります。そのアイドルグルー
プのコンサートに行った時の
出来事です。

そのアイドルグループはと
ても人気でその中にはもちろ
んマナーの悪いファンの方が
います。この日はコンサー
ト会場でたくさんマナーが
悪いファンを見かけました。
中には大声で叫んでいる人や
ゴミを平気で捨てている人。

私は悪いと分かっていたのに
何を言われるか分からないと
いう恐怖で注意することがで
きませんでした。そして会場
内ではアンコールも終わり、
みんなが帰り始めてしまし
た。私はまだ会場内に残りた
かったのと、あまりにも人数
が多かったので、少なくなっ
てから出ようと思っていまし
た。そのうち人が少なくなっ
たのでもう帰ろうとした時、
ふと目に入ったのが、ファン
の方が捨てていったゴミを
拾っている姿でした。一瞬ス

タッフさんかとも思いました
が、ファンの方達で、自分で
落としていないのに、自分か
ら積極的にゴミ拾いをする姿
にとっても感動しました。私も

一緒にゴミ拾いをしたので、
その方に話を聞いてみました。
「私達はコンサートで楽しま
せてもらっている側なので、
少しでも感謝ということを出
来るだけ自分達ができること
はしている。」

と言っていました。私はこの
言葉を聞いて、こんなに心が
温かく親切なファンの方がい
るんだなと思い、とても感動
しました。ファンマナーが悪
いことは、今後減るか分から
ないけれど、少しでもこのよ
うな心の温かいファンの方が
増えて欲しいなと思います。

今までの私は、コンサート
が終わるとすぐ帰っていたけ
ど、今回残ってみて、親切な
ファンの方がゴミ拾いをして
いるのが付くことができ
て本当に良かったです。これ
からまたコンサートに行く機
会があると思います。その時
は自分から積極的にゴミ拾い
をしたいです。そしてこの事
を周りに呼びかけ、マナーの
良いファンを増やしたいで
す。私は改めてこのアイドル
グループのファンになって良

かったなと思いました。そし
てこれからもずっと応援した
いです。

僕のロマン

●平尾中学校3年

トヨタ
ヒロノリ
豊田 大徳

「酸素にあふれた銀河の発見」
「異星人発見の可能性」「超巨
大ブラックホール撮影成功」。
日々、様々な発見とともに、
少しずつ姿を現してきた「宇
宙」。途方もなく巨大で無限
の広さがあると言われた
暗黒の世界。僕はそんな大宇
宙に、ロマンを感じている。

小さい頃、病弱だった僕は、
病室の窓から見えるホテルの
エレベーターの光に、宇宙へ
飛び立つロケットを重ねて、
大きくなったなら、宇宙飛行士
になると、夢をふくらませて
いた。

進級していくにつれて、将
来の夢は変わったものの、宇
宙へのあこがれはどんどん大
きくなり、部屋中が、ロケッ
トや、宇宙ステーション、惑
星達の絵であふれるように
なった。

最近、各国の宇宙開発機関
がとても興味をよせている天
体がある。その名も「オウム
アムア」。はるか彼方の宇宙

からやって来たこの天体は、
何とも奇妙な、細長い形をし
ている。一見ただの小惑星に
見えるが、その天体は地球付
近でなぞの「加速」をしてい
るのだ。それも、現在の科学
では、説明ができないという
のだ。すなわち、人工物であ
るとしか、説明のしようがな
いのだ。しかも、その経路を
たどってみると、オウムアム
アの宇宙に無数の赤色わい星
（生命を誕生させることので
きる、赤色の恒星）があるこ
とが分かった。

地球が惑星として活動をは
じめたのは、今から約48億年
前。人間の歴史は、その中で、
ほんの少しのものだ。しかし
その間に人々は、環境を破壊
し、生態系を崩し、争いを絶
やさずにいる。今の人類はあ
まりにも自己中心的で、自分
達の存在を大きくとらえずぎ
ている。現在の僕らに必要な
のは、自分達をもっと広い視
野で見つめること、そして、
一人一人で動く能力を身に付
けることだと思う。そのため
にも、広い宇宙についてもっ
と知り、存在のちっぽけさに
気づくべきだ。

僕は、もっとロマンを追求
して、地球にこうけんしよう
と思う。

毎日新聞社賞

●名島小学校2年

ヤマオカ
ヨシカ
山岡 康華

きらいだったのに。
わたしは、水ぞくかんが大す
きです。その年、水ぞくかん
に行くと、「ひがた」と言う
コーナーが出ていました。
そこに「しおひがり大会のお
しらせ。」と言うポスターが
はってありました。わたしは、
まったくきょうみがありません
でしたが、わたしのおにい
ちゃんが、

「行ってみたい。」
というので、かぞくで行くこ
とになりました。わたしは、
よごれるのがいやだし、くさ
くなるので行きたくなかった
けど、しょうがなく行くこと
にしました。
大会の日、ひがたにつくと、
フナムシと言う虫がたくさん
いて、気もちわるくて、やつ
ぱり早くかえりたかったけ
ど、大会がはじまると、貝が
どこにいるかのほうが気にな
りはじめました。そして、わ
たしは気づいたら、どろだら
けで貝をさがしていました。

貝が、見つかるよ、本とうに
うれしかったです。大会で五
いに入り、カンバッチをもら
いました。うれしくて、わた
しは、ひがたがすこしすきに
なりました。

いえにかえると、おにい
ちゃんが「ガタレンジャー」
と言う四年生になったら入れ
る、「ひがたちょうさたい」
に入ることにしようと聞きま
した。私は心の中で
「また行くの。」
とさげびました。たのしかっ
たけど、また行くのは、いや
でした。

そして、ガタレンジャーの
日、わたしはいやだけどつい
て行きました。その日は、カ
ニのちょうさでした。たくさ
んのしゅるいのカニがいて、
とてもびつくりしました。カ
ニのつかまえかたも教えてく
れました。わたしは、じぶん
で、カニをつかまえられるよ
うになりました。カニの名前
をおぼえられると、すこしう
れしくなってきた、だんだん
ひがたがすきになってきまし
た。

いまおぼえているカニだけ
でも、五しゅるいいいます。
そのカニのなかで、一ばんす
きなカニは、「コメツキガニ」
と言うカニです。コメツキガ

ニのおなかは、むらさき色で、
体は、ちいさくてとてもかわ
いいです。ひがたに行くと、
いっぱい歩くからつかれるけ
ど、とてもたのしいです。ひ
がたには、アシハラや、岩ば
など色いろなばしょがあるけ
ど、どのばしょも本とうにた
のしいです。
「こんなところに、貝なんて
いないよ。」
一年前はそんなことを言っ
ていたんだなとびつくりしま
す。きらいだったのにすきに
なれてよかったです。

歴史

●香椎小学校6年

サキヤマ
レン
崎山 煉

僕は今、「日本の歴史」に
夢中です。そのきつかけを
作ってくれたのは、みんなも
大好きな「坂本竜馬」です。

彼の名前は以前から聞いた
ことはありましたが、二年前
の授業の新聞作成の時に必要
な情報収集のため、たまたま
彼について書かれてある本を
読んでみたのですが、一気に
彼のまりよくに取りつかれて
しまいました。「なんておも
しろい人なんだ」「こんなに
素晴らしい人なんだ」と驚き

素晴らしい人なんだ」と驚き

をかくせませんでした。自分
が生まれる、はるか昔のこの
日本でこんなにすごい事が起
きていたんだと、ぼくの心臓
はバクバクと音を立てまし
た。もつとりたい、もつと
いろんな人や時代を調べて、
今の日本がここにたどり着く
までにどんなことが起きたの
か、全てを学びたくなりました。

その後、他の歴史人物の本
を読み、いろんな歴史のテレ
ビを見て、奈良県では法隆寺
を、大阪では大阪城を、萩で
は松下村塾を、京都では寺田
屋を、他にももつとたくさん
の場所をおとすれ歴史を感じ
てきました。今、ぼくが生き
ている日本が出来上がるまで
にはたくさんロマンと多くの
ぎせいがあったのだと知り
ました。

これからは、ぼくたちが歴
史を作ってゆくことになりま
す。坂本竜馬やその他のたく
さんの歴史上の人物たちが望
んでいた素晴らしい日本にな
るように、楽しみながら、責
任ある生き方をしていきたい
です。

二つの宝物

●春吉中学校1年

ミウラ
ハルカ
三浦 悠佳

「悠佳!!畑にいくばい。早
よ用意せんね。」祖父の声。
私はあわてて長ぐつをはき、
車に乗りこんだ。畑に着くと
私は一目散に野菜の元へかけ
よった。

一番大好きなミニトマトの
ハウスに入ると目の前に大き
なくもの巢。もう慣れっこの
私は手で払って枝をかき分け
た。すると鈴なりに実をつけ
たミニトマト。思わず口にほ
うりこんだ。「甘い、最高、
新鮮。」

となりにはこれまた好物の
オクラがある。オクラは細い
方が空をむいて実をつけてい
る。初めてそれを知った時、
変わった実のなり方だと衝撃
を受けた。その様子を楽しみ
ながら一本ずつ丁寧に収穫
した。

場所を移動するとキュウリ
にカラスよけの頑丈なネット
を張っている祖父。今年は何
度もカラスに野菜をダメに
されたらしくいろんな対策を
とってはいるもののなかなか
効果はないらしい。ナスや
ピーマンまでもつついた残
がいをたくさん見た時、暑い

中必死に作業している祖父
を思うとカラスに腹が立つて
しょうがなかった。
そして梅雨の時期には野菜
苗が雨で流されたりと人の手
では簡単に解決しないことが
多々あることを改めて実感した。
陽の強い時間帯をさけて
行っても外はずごい暑さ。祖
父母は慣れた足どりで野菜の
様子を見て回っていた。一年
を通して私達に美味しい野菜
を届けてくれる。これも祖父
母の「自分たちの子供や孫に
少しでも安心して食べられる
物を」との思いから。

祖母は野菜がどんなに身体
を元気にしてくれているか小
さいころからよく教えてくれ
ていた。キュウリ、トマトは
身を冷やすからほどほどに。
土の中の物、根菜類は体を温
めてくれるからこまめに
とると良い。なるべく旬のも
のをとろうね。とか。収穫し
た野菜でいろんな料理をして
食べさせてくれる母。たくさ
んの愛情入りの料理は私に笑
顔を与えてくれる。大の野菜
好きも祖父のおかけ。

中学に入り人との関わりで
つまづいている事を知ってい
る祖父母はさりげなく声をか
けてくれる。「いつでも帰っ
てこんね。一緒に美味しいも

ん作って食べよう。そしたら元気でるよ」と。私にはそれが何よりの励ましの言葉だ。いつも周りの人に尽くすことをしている祖父母。私も人を笑顔にすること、相手の喜ぶことができるそういう大人になろうと思います。

私が大好きなこと

●和臼中学校1年

横内 ヨコウチ **泉美** イズミ

私が今、大好きなこと、夢中になっていることは語学です。自分の国以外の言語にふれ、知ることが楽しくて好きです。

私は前まで、外国があまり好きではありませんでした。こういう気持ちは持つてはいけないと思いますが、他国がなんだか怖くて苦手な感じだったので、今こんなに好きになるとは思っています。去年の冬、私がある国の音楽を聞いたことでした。その世界観や曲がとても気に入って、どんどん好きになっていき、しだいにその国に興味を持つようになりました。自分が知らなかった文化や情報など、新

しいみりよくをたくさん学べました。まず、そこから、異国を好きになり始めました。もうひとつきっかけがあり、それは、知り合いに外国人がいたことです。身近に知り合いができたのは、初めてだったので、すごくうれしかったのと、少しふしぎな感じがしました。一応日本語は話せるので、あまり外国人だという感覚がありませんでした。また、私はその国に偏見がありませんでした。こわい人だったり、変な人だったりしたらどうしようという失礼な不安が心に残っていました。でもその人は、とてもやさしくすてきな心をもったいい人でした。自分が思っていたものと全くちがっていて、反省しました。そしてその人の国にも興味を持ち、新しいことを学び、やっ

とここで私は、外国はともていいものだなと完全にうけいれました。外国ともつと交流を持ちたい。そう思い考えました。日本と外国をつなぐには、まず言葉で心を通わせることが必要だということ、感じ私は勉強することを決めました。まずは学校でならう英語、そこから一生懸命頑張っています。他に勉強すると考えると、日本から近い同

私の“大好き”

●堤小学校5年

堀内 ホリウチ **紗衣** サエ

私が世界で一番好き、多分これは一生変わらないものは、「家族」です。私は家族が世界で一番好きです。

私はお父さんや妹と、別々にくらしています。お父さん達は東京に住んでいて、妹は二才の赤ちゃんです。春、夏、冬休みに東京へ行き、久しぶりに会うお父さんや妹と顔を合わせています。今年の夏休みも会いに行きました。でも、帰りの飛行機ではいつも涙。数ヶ月の旅だ、と父は毎度なぐさめてくれます。

父は、昔からお仕事がいそがしくて、時にはとまりになることもありました。でも、私たちが遊びにきた時は必ず、お仕事を休んで、私達がねた後、パソコンで夜おそくまで働いています。そして必ず、起きるのがおそいです。私はそんな父が大好きです。そして、日曜日も、「仕事中毒なの」と言って仕事をしている父が五日程、私達のために空けてくれることに感謝しています。

私の家族はみんな、やさしいです。それは「おこるとき

じアジアの中国、韓国語を学ぼうと思いつきました。なので、今私は、英語、中国語、韓国語の三か国語を学んでいます。少し大変だけど、たくさん勉強しています。こうして私は、前のように外国への良くない考えをなくし、交流をもとうと語学を頑張っています。日本ですつと学ぶのではなく、実際にその現地に行つて、直接学習もしたいと考えています。昔の私のような悪い印象を持っている人に、外国のすばらしさを伝えることをしたいです。このように、もつとまわりに目を向けて広い視野で見るのもいいものだと感じました。これからも、もつとたくさん勉強して、いろんな国のことを知りたいたいです。私は語学が大好きです。

私が好きな事

●野間中学校2年

明神 メイワシ **悠花** ハルカ

私が好きな事はバドミントンです。「君が好きなこと」というテーマを見たとき私は「バドミントン」しか思い浮かびませんでした。私はこれ

までこのスポーツに色々な事を教えてもらいました。そして私を成長させてくれました。バドミントンが私の何を成長させてくれたのか、それは周りをみる力と積極性です。

周りをみる力は二度チームのキャプテンをした事と毎回の練習の準備と片づけが関係しています。チームのキャプテンをした時にはだれよりも周りを指示を出したり、動かしたりしなければいけません。そして毎回の練習の準備と片づけの時には、体育館に入るとすぐに準備をして練習ができるようにしなければいけません。また季節や練習の内容によって準備も変わります。なので毎回練習ができる環境を確認するようにしています。片づけも同じです。次に使う人たちが使いやすいように、来た時と同じ状態にもしなければいけません。そういう時によく周りを確認しています。バドミントンのこういう経験や日常的な行動が私の周りをみる力を成長させてくれていると思うし、私のバドミントンのプレーにもきつと活きていると思います。積極性はバドミントンの声出しや練習で成長できた力だと思います。練習中には常に

思っています。好き、きらいは不思議です。でも、変わらざこれからも家族を大切にしていきたいです。

ゴールを目指して

●姫浜中学校1年

横山 ヨコヤマ **蒼空** ソラ

「ハア、ハア、ハア。」僕は、走っている。たくさんの人の中で僕は走っている。息が苦しくなってきた。でも、僕は、走っている。ゴールを目指して。

ここは、博多の森陸上競技場。僕は、記録会に初めて出場した。部活を始めて約四ヶ月。試合に出場できたこともうれしかったが、それ以上に、みんなと一緒に競い合いながら走っていることが、とてもうれしかった。夏の暑さも、全く気にならなかった。半年前の寒い冬の日の僕がその姿を目にしたら、きつとおどろくだろう。

小学校六年生の一月。僕は病院にいた。緊張の連続だった。生まれつき背骨に異常があり、二歳のころから、通院していたが手術をすることに決めた。手術は無

声を出さないといけません。自分から声を出して練習することで「自分から」が身についたと思います。練習では積極的にならなければいけません。また練習試合の時などは強い人などに申し込んでお願いしたりしなければいけないのでそういう部分で積極的に行動できるようになつたと思います。

このように私はバドミントンから沢山のことを教えてもらいました。周りを見る力や積極性以外にも我慢強さや周りをまとめる力がついたり、色んな人と話せるようになってきました。そして今はバドミントンのプレーとしてだけでは無く学校生活でも活きてきています。学級委員をやったり生徒会役員にもなる事ができました。それはすべてバドミントンのおかげです。そしてバドミントンはこれからも私に沢山のことを教えてくれるはずです。だから私は大好きなバドミントンをおばあさんになつても続けたいと思います。もちろん楽しく。私はこのバドミントンというスポーツを一生大好きな事にしたいです。

事に成功したが、高熱や痛みは長く続いた。その時にもらつた友達からの手紙や家族の言葉が唯一の心の支えだつた。病院の先生や学校の先生もはげましてくれた。弱気になつていた僕は、周りの人の支えもあつて心も体も元気になり、退院することができた。僕は、

「これでやつと、元の暮らしにもどれる。」と、心の底からほつとした。それと同時に、「運動や外遊びが出来ないのは辛い。」と悲しみも感じていた。

半年間は、転んだりぶつかったりすると危険なため運動を制限された僕は、中学校に進学して大きな壁にぶつかった。それは、「どの部活が一番、自分に合っているのか。」という悩みを解決できなかったからだ。ずいぶん迷つたが、体を動かすのが好きな僕は、文化系の部活に入ることは考えられなかった。家族と話し合った結果、陸上長距離部に入ることにした。別メニューの練習が続いた。一人で走る事が多かった。でも、先輩や友達がいつちも声をかけてくれたので、さみしくはなかつ

NIJIMA 賞

こいびと、こいびと

●堤小学校1年

松尾 マツオ **明花音** アカネ

わたしは、がっこうがだいすき。にゅうがくしてすぐは、ほいくえんにもどりたくて、おかあさんといっしょがよくて、いっばい、いっばいないた。しようがっこうは、はじめてがいっばいで、ふあんとドキドキもいっばいだった。

でも、いまは、おともだちがいっばいできた。まいにちがたのしい。べんきようもだいすき。ひらがなをすらすらよめるようになったし、うれしい。おともだちになわとびをおしてもらつてとべるようにもなった。

しようがくせいになつて、できることがドンドンふえてきた。できることが、いっばい、いっばいだ。だから、いまのわたしは、がっこうがだいすきだ。

た。僕は走ることが好きになつていた。

「これからは、なんでもしていいよ。」

と、病院の先生からきよかが出たときは、

「やったー。」

と、喜んだ。部活の先生に報告すると、握手して一緒に喜んでくれた。僕はますます走ることが好きになった。

今の目標は、試合にたくさん出てがんばること。そのために、日々、努力しながら走っていきたい。自分だけのゴールを目指して。

僕の妹

●春吉中学校1年

吉田 空翔

僕には、小学一年生の妹がいます。僕は、年長になるまで一人っ子だったので、弟が妹が欲しいなど思っていました。夏休みの泊まり保育の時に妹が産まれました。初めて見る妹は、とっても小さく可愛かったです。とても小さく産まれたので、すぐ退院できなかつたのでお母さんと一緒に病院に通いました。八月に退院した時は、とつてもうれ

RKB毎日放送賞

楽しかった夏休み

●馬出小学校5年

鶴尾 小春

私は7月29・30日に大分に行きました。車で3時間かけて大分に行きました。

1日目はホテルに行きました。夜ご飯と朝ごはんはバイキングでした。前に行ったすぎのいホテルとはちがう楽しみがありました。

おふろは3かいと7かいにありました。3かいは大浴場で7かいは、ろてんぶろです。どつちも入りました！気持ちよかつたです。

朝日はとってもキレイで海もきれいでした。

2日目はハーモニーランドに行きました。くじびきでは1等しようでトートバックがもらえました。うれしかったです。

また大分に行きたいとあらためて思いました。ホテルの名前は別府温せん大えど清風です。みなさん別府温せん大えど清風に行ってみてください！楽しいですよ！ご飯もいいです。近くにかん国の

しがつたです。妹が帰って来てとつてもお母さんが大変そうだったのでミルクをあげたりお手伝いをしたりしました。日々の成長で、目が見えるようになってきたら良く笑うようになってとつても可愛く感じました。一歳近くになると僕の後ろについてくるようになり、妹は、歩きはじめるのが遅く、一歳半でやっと歩けるようになりました。妹と一緒に公園に遊びに行ったりしました。そんな妹も今は、小学生になりました。小学生になった妹は、とつても可愛いです。ワガママな時があるのでけんかをしたりもします。今年、小学校に妹の運動会を見に行つた時は、頑張っている所を見てとても感動しました。夏休みに入つてからは、宿題があるので一緒に分らない所は、教えながらしています。妹の宿題やアサガオを見ているとなつかしい気持ちになります。小さい頃は、お兄ちゃんと呼んでいました。最近、

「そろそろ」と呼ぶようになりました。この前は、大きな声で「そろそろ」と呼んだので、とつてもはづかしがつたです。最近、妹が自転車を買ってもらったので僕は、なかなか乗れなかつた

やきにくもあります！

次は山笠のバーベキューをしたはなしです。

私のお父さんは山笠の役員です。その時のバーベキューのはなしです。

私は8月3日土よう日に山笠のお友達や大人の人といつしよにバーベキューをしました。ナイトプールがあつて山笠の人と山笠の友達がおされておちました。花火もあがりました。ナイトプールで遊んでいるとなんとめんたいワイドのインタビューをしてテレビに出ることになってうれしがつたです！

8時ぐらいになったらマーベルのえいが始まつてこわすぎて足がふるえてました。

お父さんはよつぱらつて最後はどつかにいつて探しまわつたら山笠のみんなが帰りバスに乗っている所の前ですわつてまつてました。その時はビックリしました。バーベキューが終わつたのは10時ピッタリでした！

とつても楽しい1日でした。またやりたいです。バーベキュー。

ので妹は、早く自転車に乗れるようにしてあげたいなと思います。妹は、今すぐくはまつていることがあります。それは、ゲームセンターのクレイソングームです。欲しい人形があると取れるまで帰れません。だから、一生けんめい取つてあげようと思うけどなかなか取れません。

最近、おばあちゃんの家にとこたちと集まつた時、弟がいるいとこが、うらやましいなと男同士で仲良く遊んでいる時を見て思いました。だけど、僕の名前を呼んで甘えて来る妹は、とつても可愛いです。これからも、楽しい学校生活を送つて欲しいです。

美しい日本語

●青葉中学校3年

石川 史枝

私は読書が大好きだ。物心ついた時には本が自分のそばにあつたように思う。本を好きになつたきっかけは、小さい頃に母が絵本を読み聞かせてくれたことだ。母は面倒くさがつて、一度読んだ絵本を何度も繰り返し読んでくれることはしなかつたが、そのおかげもあつてか暇があれば自分から絵本を読むようになった

ぼくは今ラグビーに

燃えています

●吉崎小学校6年

溝邊 享仁

ぼくは、小学四年生の春からラグビーを始めました。最初は、父に体が大きいからむいてるのではないかと言われ、なんとなく見学に行きました。全く知らなかつたラグビーだけど、だ円形のボールを上手に投げていてとても楽しそうだと感じ、すぐやつてみたいと思いました。それから2年経つて、ぼくは今ラグビーが大好きです。

ラグビーは、ボールを相手の陣地の奥にあるエリアにおくと得点が入ります。ボールを持ってどんどん走つてもいいし、仲間にパスをしながら前に運んでもいいし、キックをしてもいいです。ボールを持って自由に走れるのは気持ちがいいです。相手が止めようとタックルにきたら、ステップをふんでかわしたり、ぶつかつてたおしたりしながら前へ前へ進みます。痛い時もきつい時もあるけど、ボールが自分にまわつてきて前へ向かう時のわくわくと興奮は、僕を強くしています。もしたおされても、うしろから

ていた。そして、小学校にあると友達数人と図書室で本を読んでは感想を言い合うのが、毎日の昼休みの過ごし方だった。

「私の趣味は読書です。」と言うと、人によっては「本とか文字ばかりで嫌い。」という返答をされることがある。私も文字を読むこと自体は、あまり得意な方ではない。読書のどんなところが好きかというと、自分もその物語の中の世界に入り込んだ気持ちになれるところだ。時代や性別をこえ、現実の世界では体験できないようなことも、物語の登場人物の視点になり体験することができるので。学校の授業を受けて少し疲れたなど思うときも、十分間の休み時間に本をたつた数ページ読むだけで、仮想の世界の登場人物になれる。すると、疲れがとれて集中して次の授業を受けることができるのだ。

また、文章の中に隠れた「美しい日本語」を探すのも、楽しみの一つである。同じ風景を見ても感想が一人一人違うように、同じことを意味する言葉でも本の作者によって微妙に使い方が異なる場合がある。その微妙なニュアンスの違いが読者の心を引きつける。

仲間がすぐサポートに来てくれるので、とても心強いです。何回も練習をしたパスがうまくつながつた時は、プレーにスピードが出ていい流れができます。パスは後ろからの仲間の声をたよりにするので、信ら関係が重要です。僕のチームメイトはみんな優しくおもしろくて上手です。この仲間と戦えるから、ぼくはどんどんラグビーが好きになつたのです。

ラグビーを始めたころ、ラグビーは助け合いのスポーツだ、色んな体格や性格にびつたりのポジションがあると本で読みました。走るのが遅くて太つていることが少しはづかしがつたけど、できることがある！と思うとすごく楽しがつたです。チームメイトみたくにかれいなスピードでは走れないけど、力強いタックルはほめてもらえる。できることが少しずつふえて、初めてトライした時は涙が出そうになりました。体がはげしくぶつかるスポーツなので、けがはこわいです。

こわくて、自分より大きな相手だと、変な力が入つてうまくタックルできないこともあります。でも今タックルが楽しいです。何度も練習をして、

また、文章を読むだけで細やかな情景が頭に浮かんだり、人物の心情の変化を感じ取りたりすると、私はその文章を「美しい」と感じる。様々な表現の仕方がある日本語だからこそ、キラリと光り読者の心を引きつける表現を探すことがおもしろいのだ。

私は、本を読むことで「美しい日本語」を使うことのできる素晴らしさを知つた。本来とは違う意味で伝わった言葉やいわゆる若者言葉が多用される中で正しく、受け取る側の心を引きつけられるような日本語を使うことが大切なことではないかと思う。私は、特にやりたい仕事が決まっていなくてはないが、美しく、またその雰囲気を引き込まれるような日本語を紡ぐことのできる大人になりたいと思う。

いいプレーはコーチがほめてくれるので、強気で自信をもつて向かうことができます。怖いけうになつてきました。怖いけど楽しい、ラグビーでしか味わえないと思います。

他チームとの試合後は、一緒にご飯を食べたりします。試合以外では敵も味方もないというノーサイド精神です。ノーサイドという言葉は海外ではもう使われていないようですが、ぼくは本気で戦つた相手と笑いながらご飯を食べる時間も好きです。仲間も相手も尊重する、ラグビーはいスポーツです。

試合を見るのも楽しいです。鍛えた体どうしのぶつかる音がきこえる程のすごい迫力です。スピードや技にひきこまれます。たく山のの人に試合を見てほしいです。

もつと練習して練習して心と体をきたえて、いつかプロラグビー選手の夢をかなえます。

私の大好きな山笠

●吉塚中学校2年

オナギ
中山 りおん

私は、山笠が本当に大好きです。でいてない人からすれば子供は走っているだけでつまらないって思われるかもしれないけど、とても楽しいし、いろいろなことが学べると思います。

山笠が大好きな理由は、この時期にしか味わえない雰囲気、この時期にしか会えない友達など、この山笠というものは、特別なものをたくさん持つていると思います。私は0歳の頃からだっこをされながら出ていました。それから、小学校5年生になり、一緒に出ていたおじさんから「もう5年生だし、ちょうど一番山だからきりがいい。6年生はもう出るな。」と言われました。私は、この言葉を言われて、本当に悲しかったです。私は「もっと山笠に出たい。もっとみんなで走りたい。でももう5年生で最後の山笠が終わってしまった。」ものすごく悲しくて終わった後には、お母さんにだきつき号泣しました。「まだ6年生だったら出れるのに。別におしりを出すのなんかはずかしくな

い。」という気持ちがおさえられませんでした。それから約1年後の6月頃。山笠の時期が近づいてきました。私はどうしても山笠に出たくて、うずうずしていました。だから、がまんできず、おじさんに手紙を書きました。そしてその夜に電話がかかってきました。「そんなに山笠に出たいのか。」と、それから電話を続けて、したら、全部はダメだけど、出たい。と言われました。その時は、本当にうれしくて涙が出てきました。そして、山笠の時期が来ました。私は、出れない日でも見に行きました。そして、山笠に出る日では、昔私が小さいころに手をつないでくれた、町内のお姉ちゃんのように、両手に4人ほどつれて走りました。きつかったけど、最後の山笠、6年生まで出ることができて本当にうれしかったです。そして最後は笑顔で終わることができました。

私が大好きなこと

●友泉中学校2年

タナカ
田中 琉惺

僕が今、夢中になっていることはメダカの飼育です。

僕がメダカを飼いだめたのは小学校5年生の時、きっかけは、学校でメダカの卵をもらったことでした。しかし、最初は稚魚の時に死なせてしまったりして、一匹も成魚にすることができませんでした。そして、6年生の時に再びもらった卵からは、二匹成魚にすることができました。それまでは、エサをあげて水かえをして、という最低限の世話しかしていませんでしたが、中学校一年生の時に、新たに5匹のメダカを買ったことをきっかけに、インターネットなどで屋外飼育などのさまざまな飼育法やたくさんメダカがいることを知りました。そして、そこからもういろいろなメダカを飼ってみたい、もっと飼育を楽しみたいと思いい、どんどん飼育に没頭していきました。また、同じようにメダカの飼育を始めた友達もできて、新しい品種のメダカも飼いはじめ、念願だった屋外飼育も始めることができて、どんどん充実した

い。これからも、ずーっと見に行き、もし子供が生まれたら、出してあげたいと思っています。その子供にも山笠が大好きになってほしいな、と思います。私はいつまでも山笠が大好きです。

大好きな祖父との、約束

●春吉中学校2年

イガ
伊賀 愛奈

私には別居の祖父がいます。私は祖父の事が大好きです。会うたびにいつも優しい祖父、色々な所に連れて行ってくれる祖父、時にはマナーが悪いと厳しく注意してくれる祖父。そんな祖父といると、驚くほど素直な自分がいま。学校のことや習い事のこととはよくわからないはずなのに、祖父が領きながら、ずっと喋っている私の相手してくれます。私が話を聴く相手になってあげないといけないのに。

小さい頃から、祖父の家に行く予定がわかると、楽しみに夜も眠れませんでした。「今日は何を話そうかな」「今日はどこに連れて行ってくれる

のかな」と思えば思うほど、

居ても立っても居られなくなり、祖父とは色々な場所に行きました。そのほとんどが普段行かない場所ばかりです。例えば、珍しい魚が鑑賞できる水族館、幻想的な藤棚、大晦日には除夜の鐘を撞きに寺院に行ったりしました。祖父は私たち孫のことを考えて、「今度はあそこへ連れて行くよ」と考えてくれていたのでしょうか。祖父も、当日会うまで行き先を覚えてくれませんでした。その「会ってからの楽しみ」がお互いの「楽しみ」になっていたのかもしれない。このような祖父ですが、一方でマナーに厳しく、挨拶の仕方、食事の箸の持ち方、仏壇へのお参りの仕方など、「同じことを何回も注意されないようにしなさい」と親以上に怒られることがあります。普段は優しい祖父から怒られると、いつも反省しきりです。

そんな祖父が、今年になって病気になるました。病名は私たちに教えてくれませんでした。祖父が勤務する会社を長期で休むことになったこと、祖父は一人暮らしのため私の住む家の近くに転院し入院、手術することを聞き、

重たい病気を患っていることは私にもわかりました。自分のことではないのに、目の前が真っ暗になりました。手術の前日病室で祖父に聞きました。「手術、怖い？」祖父は、一瞬間がありました。が、「うん。ちよつと体の中に針を入れるだけだよ。」と笑顔で答えました。手術が八時間にも及んだと聞き、何事も手につかない自分。悪いことを考えたら涙が出てきそうな自分。早くおじいちゃんに会いたい。手術から二日後、ようやく祖父に会うことができました。ベットに寝たままの祖父は、私と会うなり「大丈夫。何ともなかったよ」といつも優しい笑顔で言ってくれました。少しだけ、涙が出ました。

祖父は今月三回目の手術を受け、今のところは特に大きな問題は見つかっていない、と聞いています。祖父とは私が成人になり、一緒にお酒を飲むこと、車の免許を取り祖父をどこかへ連れて行くことを約束しています。祖父にはこれからも元気でいてほしい。私は今できることを一生懸命取り組み、立派な大人になります。

NEO賞

うまれたひから

●堤小学校1年

ニシヤマ
西山 希生

わたしが、だいすきなものは、ふわふわしているおふとんです。

そのおふとんは、さわったり、くるまったりするときもちがいです。いろは、ちゃいろとしろです。かたちは、ほそいしかくです。におってみると、とてもいいにおいがします。さわってみると、やさしくて、つめたいかんじがします。とくに、あつときにかぶっていると、つめたくてもちがいです。

このおふとんのことをおかあさんにきくと、「きいちゃんがうまれたひに、そのおふとんにくるんでいたんだよ。」と、おしえてくれました。

それをきいて、わたしは、とてもうれしかったです。このおふとんをずっとたいせつにしていきたいです。

ぼくが大好きなこと

●照葉北小学校4年

ヒラタ
平田 朋暉

ぼくが、大好きな事は、野球です。友達と遊べるときは、だいたい総合体育館というところでやっています。一人の時は、雨さえふっていないければ、石に向かってボールを投げて投球の練習をしたり、投げてははねかえってきたボールを取って、しゅびの練習をしています。

野球が好きになったきっかけは、友達に野球をして遊ぼうとさそってもらった時です。最初は野球のルール、バットのにぎり方、ボールの正しい投げ方などがまったく分からなかったので楽しくないと思っていました。だけど、何度かやっているうちに、最初はまったくわからなかったところがだんだん分かってくるので、楽しくなってきました。

野球の試合に負けてしまったり、三しんになったとき、アウトになった時はとてもくやしい気持ちになります。ぎやくに、試合に勝ったり、ヒット、ホームランを打ったり、三しんをとったり、塁に出たりした時はとても気持ちがいいです。特に、バットの

真ん中にボールが当たったときのカン！という音が鳴ると気持ちいです。その他にも野球は、チームでプレイするからおたがいが助け合ったり、いプレイができたときは、ハイタッチをします。そのため、同じチームになった友達ともっとなかよくなれます。

最近では、野球を習い始めました。そこで教わったことは、転がってきたボールを取るときに左足を少し前に出して取り、投げる時は、投げた場所をずっと見ながら投げることです。そうすることで、ボールを取ってから投げるのが速くなり、ボールがまっすぐ投げられるようになりました。

僕にとって一番のかけがえのないものは、コントロールです。ボールを取ると心の中で絶対にアウトにしないといけないと思わず、落ちついて相手のむねに向かって投げることを意識したいです。

これからも自分のかだいをなくしつつ、野球がもっと強くなれるようがんばっていき

たいです。

ぼくが鉱物を好きになわけ

●東箱崎小学校5年

岡田 有人

ぼくは石が好きです。でもただの石ころとしてではなく、鉱物として好きです。鉱物とは、岩を作っている部品のような物です。なぜ鉱物が好きかというと、鉱物の一つとして形や色など同じものがないから、僕は見あきることありません。鉱物を見ている時、「この鉱物はどうやって出来たのだろう。」「この石のかたまりの中には、別の鉱物が入っているのかな。」

「この鉱物は銀色にキラキラ光っているな、かっこいいな。」
と考えていると、時間があっというまにたつてしまいます。そんなぼくは最初から鉱物が好きだったわけではありません。ぼくが鉱物に興味を持ち始めたのは、ようち園のころです。ある日、ぼくは庭できれいな白い石を見つけて、となりの住人であるおばさんに見せると、
「それは石英という名前だよ。」と教えてくれました。なので、

「石ってきれいだな。たたくと、なんとなく、石が好きになりました。」

そして、小学二年生の時に石のひょう本作りのワークシヨップに参加しました。それは約20種類の鉱物と、その鉱物の取れた場所と名前が書いてあるラベルが置いてあり、その中から自分が好きな鉱物を選んで、ひょう本を作るというものです。この時ぼくはこの世の中にこんなきれいな鉱物があつて、それが自分の手に入れることが出来たので、とてもびっくりして、ようち園のころに比べて百倍鉱物が大好きになりました。

今、ぼくはたくさん鉱物を集めたり、自分でめずらしい鉱物をとりに行ったり、鉱物についての本を何十冊も読んで、昔と比べてもっと鉱物の知しきがふえました。

ぼくのまわりには、鉱物が好きな友達がぜんぜんいません。だから、その人たちに鉱物のみ力を知ってもらい、鉱物を好きになつてほしいです。ぼくのしような来の夢は鉱物学者です。それは、今も鉱物は、色々な物を作るのに使われていて、ほう石としてもたくさんの人を喜ばせています。

なので、ぼくも新しい鉱物の使い方を発見して、たくさんの人を喜ばせたいと思います。

大好きな野球

●筑紫丘中学校2年

佐々木 勇輔

僕は小さいころから野球が大好きで、小学二年生から野球チームに所属しており、毎日野球をがんばっています。僕は、野球が大好きだったため、チームが休みの日も友達と一緒に自主練をしてがんばっていました。

そして、四年生から本格的に試合に出始めて、最初はめちゃくちゃ緊張して声も全然出すことができずにいたが、先輩やコーチから思い切つてプレーしろと言われて、いっきに緊張がほぐれて試合に臨むことができた。

そして、野球はどんどん上手くなり、学年が上がるごとに、ポジションもセカンド、サード、センター、キャッチャー、ピッチャーと守れるポジションもふえていった。どこのポジションでも野球をできることが楽しくて、夏の

NPO博多の風賞

●香椎小学校3年

外山 凜

今、わたしは大相撲にむちゆうです。なぜ好きになつたかというところ、とりくみ中のしんけんなすがたと、ふだんのかわいすがたを見るきっかけがあつて、きょうみをもちました。

力士には番付というものがあつて、横綱、大関、関脇、小結、前頭、十両、幕下、三段目、序二段、序ノ口、番付外のじゅん番です。十両以上から、日本相撲きよう会からお給りよがもらえます。力士のみんなは、横綱を目指してけいこにはげんでいます。上を目指すがたが、かっこいいな、がんばつてほしいなと思います。

力士は、午前5時ごろおきて、またわりやしこやすり足のじゅんびをします。そのころ、わたしは朝おきて7時20分に家を出ます。わたしが1時間目のじゅぎようが始まるころに力士の人たちが組み手、ぶつかりげいこ、な

あつい日も冬の寒い日も練習をくさることなく頑張つた。四年間頑張つた結果六年生の時にはキャプテンにまでなることができました。

そして中学生になりました。だけど、野球を好きな気持ちには中学生になつても少しも変わることもなく野球部に入部して、新しい仲間とも仲よくなり、一緒に頑張つていきました。そのおかげで、中学一年生から試合に出ることができてとても頑張つたかいがあつたなと思いました。

しかし、そんな時にピッチャーでボールの投げすぎで野球ひじになつてしまいました。その野球ひじは手術をしないといけないほどのひどさで、だけど時間をかければなおるといわれていたが、しかし、どうしても僕は、早くなおして野球がしたかったので、手術を受けることに決めました。最初はとても怖くて手術をしたくなかつたけれど、自分の大好きな野球の方が大事だったのでがまんをすることにしました。

そして、手術をしたが最初はどうしても僕は、早くなおして野球がしたかったので、手術を受けることに決めました。最初はとても怖くて手術をしたくなかつたけれど、自分の大好きな野球の方が大事だったのでがまんをすることにしました。

わたしは5時間目が始まるころ、力士はみんな昼寝をしています。たくさん食べて、たくさんねて、体を大きくするのは力士の仕事だからです。わたしが下校して宿題をしているころ力士は、夜ごはんのちゃんこを作って食べて、7時ごろからやつと自由な時間みたいです。でも、幕下の力士は大部屋でみんないっしょに生活しています。

相撲の最大のみりよくは本場所です。番付が上がるか下がるかのかかったしんけん勝負です。この日のために力士は、けいこで体をきたえぬいています。

わたしが、とくにおうえんしている力士は千代丸関と明

り、リハビリの日々が始まりました。この野球ができない期間も、復帰した後には、役にたつてくれるように苦しいリハビリを頑張る早く治して野球で中学生生活一番の思い出をつくりたいと思います。

私の好きなもの

●春吉中学校2年

浦吉 真愛

私は日本の四季が好きだ。春夏秋冬という四季は日本独特で、世界中で四季があるのは極わずかである。私が四季を好きな理由はただ暑いから寒いからというわけではない。聴覚や嗅覚で感じる四季が好きなのだ。

まず夏は、セミの鳴き声で始まる気がする。太陽の陽射しでも気温でもなく毎年変わらぬ家の近くの木でセミが鳴き始めるのだ。周りの人は聞き捨てるかもしれないが、その鳴き声を聞くと自分だけに夏を伝えるにきてくれたのではないかと優越感を感じる。それと同時に一週間しか地上で生きることのできないセミのことを考えると少し悲しくも感じる。そして夏には

生関です。千代丸関は九重部屋で、明生関は立浪部屋です。ほかにもたくさん好きな力士はいますが、どの力士にも今までがんばつたど力が実るといいなと思っています。

私の大好きな山笠

●箱崎小学校5年

渡邊 佳音

「おいさつおいさつ。」博多祇園山笠のかけ声が、私の家では一年中聞こえています。二才の弟は山笠が大好きで、家の中でも外でも、走る時には必ず「おいさつ。」と言うからだ。走り始める時には、

「五秒前。四、三、二、一、やー。」と言って走り出す。そんな弟を見てるのが、私はとても楽しい。

弟は今年のお汐井取りで初めて自分で走った。昨年までは父にだっこされて走っていた。父と手をつなぎ走る弟はとてもうれしそうな笑顔だった。山笠の時はいつも険しい顔をしてる父も笑顔だった。そんな弟と父を見た町内の人達も笑顔になった。みんなが

離島の祖父母の家にフェリーで行くのが一番特別だ。お盆過ぎに行くため毎年台風の影響を受ける不安がある。フェリーが出發できるかできないかのところで結果行けたときには、行けないリスクはあるが喜びは倍増する。もちろん夏の終わりは宿題を終わらせるのに一生懸命になるのがオチである。

秋になると玄関に落ち葉がたまつていく。外の空気は少し冷えて秋の匂いは言葉で表すと香ばしいような感じがする。秋にはセミに変わりツクツクボウシが鳴くようになり、まだ地上にたばかりのツクツクボウシのへたくそな鳴き声を聞くと思いがけず笑みがこぼれてしまう。秋で一番好きなのは雲だ。時間によつて雲の色が幻想的な紫や桃色に変わっていくのを見ていると時間がたつのも忘れてしまう。ただ地面に落ちて踏まれた銀杏が臭いのは耐えられない。

冬になると日が昇るのが遅くなるのに加えて気温が下がるため、ベットから起き上がるのがおっくうになり、私は冬だけ目覚まし時計を2つ用意するのが決まりである。窓ガラスが結露しているのを見

弟の成長を喜んでくれているようであれしかった。

私も赤ちゃんのころは山笠に参加していたが、ここ数年は参加していない。今は、ごりよんさんの手伝いに夢中だ。料理をならべたり食器を洗ったり、私に出来る事を見つけて手伝っている。もう一つ私には、大きな役わりがある。私よりも年下の子ども達の世話だ。男の人達が直会に出ている間や、ごりよんさん達が料理でいそがしい時に、町内の子ども達がけがをしないうように気を付ける必要がある。責任重大だ。私が小さかったころ、年上の子ども達がいつも遊んでくれていた。今は私の番だ。そんな私に、町内の人達は、

「いつもありがとう。」

「がんばろうね。」と声をかけてくれる。それがうれしくて、私はもつとがんばろうという気持ちになれるのだ。

山笠は男の人だけで山をかく祭だ。しかしそれをささえるごりよんさんがいて、大人を見て育つ子ども達がいる。小さな子は年上の子どももの姿にあこがれて学び、年上の子ども達は大人に支えられながら自分の役わりを見つけてい

く。弟の成長を喜んでくれたり、私のがんばりを認めてくれたりと、山笠でつながっている人々は、私にとっても温かい居場所を作ってくれている。だから私は山笠が大好きだ。

未知の世界へ

●吉塚中学校2年

タカハシ
高橋 美鈴

私が、大好きなことは読書です。なぜかという、本には数知れない未知の世界がいくつも広がっているからです。一ページ一ページめくっていくと、本によって物語や図鑑、写真だけの本、専門的な本などたくさん種類や用途に使える物が数多くあります。身近な物で言うと「教科書」も本のうちのひとつではないでしょうか。

本と言うと、読んでいると眠くなると思う人もいます。たしかに、読んでいると少し眠くなると思うけどその時は本を閉じて、また読むときは別の本を読むといいと思います。なぜかと言うのは、私が

から感謝されとうれしいということに改めて気づきました。このように、手作りは、私にいろいろなことを教えてくれます。だから私はこれからもずっと手作りを続けていこうと思います。

私が大好きなこと

●長丘中学校2年

ヤノ
莉音

私は陸上が好きだ。私は中一になって軽い気持ちで陸上部に入った。周りの人達は走るだけだと言っているが、それは違う。

私が陸上のことを好きな理由は試合などで練習の成果が出た時にすぐ達成感があるからだ。例えば、あの時きつかったけど自己新だせてうれしいなと思ったり、できなかつた動きや苦手な動きが上達したりした時、私はとてもうれしくなる。それは私だけじゃなく、みんなそうだと思う。このように陸上はただ走ればいいということではなく、結果を出すために地道な努力が必要でそれは難しいことだと

やっていることだけど、一回読んで眠くなってまた読み続ける、眠いままでも本の内容も入ってこないからです。それに本を読んでいて飽きたりという事に繋がると思うからです。別の本を読むと言うのは、内容や種類の違う本を読みます。そうすると、新しい内容でちよつと変わった刺激を受けると眠気もなくなるし、その本が物語だった場合は知らない世界に入り込むことができるし、その本が専門的な本や何かの情報を持っている本だった場合は、自分に得する情報や自分では知り得ない事を偶然知ることが出来るからです。

そして、その新しい本に興味を持つきっかけになると思っています。でも、毎日こんなふうに本を読み続けるのはあまりできることではないと思います。一気に読むのではなく、今の自分の気分で読む本や量を変えてみると、また本に触れる事が楽しくなります。

それに、本には「何かを伝える」という力があると私は思います。それは、歴史だけでなく、人の思いや何かの伝統を伝えることです。今は、インターネットやスマホとかでそういう事はすぐ調べ

思う。練習ではただ単にメニューをするだけじゃだめだ。ウォーミングアップをするとき、流しをするとき、種目をするとき、それぞれの動きには自分の課題があつて、それを意識していかないとけない。つまり練習に集中してメリハリをつけなければならぬのだ。私は移動中などの時間に友達と話してしまうので、その時間を陸上についてしっかり考える時間に変えないとだめだと思ひ、最近は特に意識をしている。私は陸上が深いということに気づき、沼にはまってしまう。

もう一つ私が陸上を好きな理由がある。それは、陸上を通して人として大切なことについて学べるからだ。例えば、上下関係。先輩が練習の準備をしていたら、後輩がかわる。私は一年生のはじめのころ、そんな上下関係がいやだった。だけど上下関係を大切にしていこうちに、先輩方と少しずつ仲良くなれていったと感じた。私はこの上下関係は何もしていなかつたら分かんない。今では三年生も卒部して、二年の自分が最上級となった。私は一年生のころに感じたことを生かして、一年生と関わって

ることが出来るけど、昔の本やその人が直に書いた本の方が伝わりやすいと思います。私は本がすごく好きだけど、本が今は好きじゃない人もいるかもしれないし、本自体に興味が無い人もいると思ひます。私は、少しでもそういう人達に手に取ってもらって、数ページだけでもいいから本を読んでほしいです。そして、少しは本と向き合えると思ひます。

これからも私は、たくさん本を手にとって新たな世界と出会っていかうと思ひます。そして、自分の知らなかつたことやこれから自分の役に立ちそうなことを学んでいきたいです。

世界に二つだけのもの

●春吉中学校2年

ミヤガワ
桜

私は何でも手作りをするのが好きです。これまで、数えきれないほどいろいろなものを手作りしてきました。

なぜ私が手作りが好きかというと、理由は3つあります。

一つ目は、自分の好きなように、思った通りの作品が自由に作れるからです。例えば、本棚のサイズがなかなかピッタリあうものが見つからない時に、私は自分で作って、サイズの合う本棚を作りました。それに手作りなので、自分でも好きなように色を塗ったり、かざりをつけたり、アレンジできます。手作りは、自分の好みに合わせて作る事ができるところがいいです。

二つ目の理由は、手作りは自分で作ることで世界に一つしかないからです。世界に一つしかないと思うと特別なもののように思えてうれしいからです。私は手作りを小学校三年生ぐらいの時に初めて作りました。私はその時、小さな入れ物を作りました。危ないので、お父さんと一緒に作りましたが、思ったよりも上手に出来たのでうれしかったです。その時作った小さな入れ物は中学二年の今でも使っています。このように自分で作ったものは大切に扱いたくなり、私はもつとものを大切に扱うようになりました。

三つ目の理由は、心をこめることが出来るからです。自分で一生懸命作ったものを友達にあげて、その友達が喜ん

でくれたとき、とてもうれしい気持ちになります。私は友達の誕生日にプラバンで手作りのキーホルダーをあげました。いっぱい失敗したけど、最後は納得できるものが出来たのでそれをプレゼントしました。すると友達がとても喜んでくれ、「ありがとう。」と喋ってくれたのがとてもうれしかったです。私はその時、いっぱい失敗したけど頑張ったことよかったです。私が引越す時、友達が一から自分でデコレーションしたりして作ってくれたアルバムをもらいました。そのアルバムを見た時、私はうれしいを通りこして泣きました。私は、自分のために何かを一生懸命作ってくれた友達の顔がうかび、とてもうれしいと感じました。このように、手作りは人を喜ばせたりすることもできます。私はこの理由から手作りをするのが大好きです。

私は、手作りをすることで物をもっと大切にするようになりました。そして、手作りで人を喜ばせたり、明るい気持ちにできるようになると考えています。そして私も、人